広報展示室 Kohio Gallery
第69回

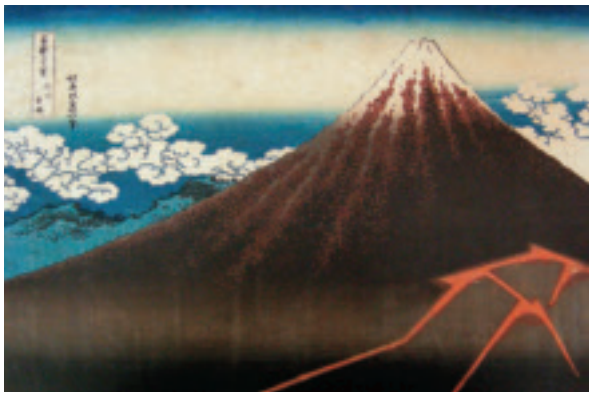
春季特別展

【浮世絵名品展－川崎・砂子の里資料館所蔵－】

１７世紀、浮世絵の初期の形態は版画や掛軸に描かれたわけではなく、屏風や襖などに当時の人々の暮らし、遊興、祭礼や京の洛中洛外が描かれていました。これを「近世初期風俗画」と呼称します。この頃作品を注文する人たちは裕福な階層の商人や為政者でした。時代は下って江戸の中期以降平和を謳歌する人々たちによって浮世絵は当時の世相を反映する情報源の一つになっていました。例えば今年の春に流行する小袖はなにか、そういう情報をいち早く各浮世絵師は描いていましたし、また琉球から幕府に使節が来るとなれば琉球ものが描かれ、伊勢参りが流行れば、伊勢までの交通手段や服装などや伊勢に関しての逸話などが描かれました。浮世絵は屏風から掛軸、版画に形態を変え多色摺版画の錦絵へ進化していました。浮世絵が普及した最大の理由の一つは幕府により価格が一枚１６文程度の安価に抑えられていたためです。天保年間に江戸の人口は１００万人を超え、世界でも最も大きな都市になっていました。江戸在住の半分は町人層で、その多くは文字の読み書きができました。浮世絵が発達した理由もその辺にあるのかもしれません。江戸時代に日本は鎖国を継続していたおかげで独自の文化が醸造し、その文化を情報化したのが浮世絵でした。

今回紹介する作品は、葛飾北斎の「冨嶽三十六景　山下白雨」（大判　版元：西村屋与八）です。冨嶽三十六景は全４６枚揃いですが、その中でも「神奈川沖浪裏」「凱風快晴」と共に代表作として知られています。

この作品は「黒富士」で親しまれています。本図は富士の山そのものに接近し、その雄大な姿を写しています。山頂は晴れ渡り、山肌は太陽に赤く照らされています。しかし空にはむくむくとした入道雲が見え、麓は暗く、画面の右下で強烈な存在を放つ稲妻が、麓に降るであろう夕立（白雨）を予感させています。快晴と白雨という二つの自然現象が、一つの富士山の山の上下で表現されています。



「冨嶽三十六景　山下白雨」

馬頭広重美術館長　市川信也

【会　　期】後期：5月27日(金)～6月26日(日)
【休 館 日】月曜日、祝日の翌日
【開館時間】午前9時30分～午後5時まで（但し、入館は午後4時30分まで）
【入 館 料】大　人　700円（630円）
高・大学生　400円（360円）
※（ ）は20名以上の団体料金。
※70歳以上の高齢者、中学生以下は無料。
※障がい者手帳等をお持ちの方・付き添い1名は半額

広重美術館入館無料のお知らせ
（県民の日関連イベント）

栃木県民の日は入館料が無料となります。
実 施 日　6月１２日(日)
対　　象　栃木県民(免許証等が必要です)
問い合わせ　広重美術館☎0287-92-1199

ミニギャラリー作品募集！

あなたの作品を出展してみませんか？

写真、絵画、絵手紙などの作品をお待ちしております。

申し込み･問い合わせ：企画財政課広報広聴係
☎0287－92－1114

ミニギャラリー

樫村はる美さん（馬頭）

「私の元気のもと」

「たんぽぽ」

No.69 平成23年6月10日号　●編集／企画財政課　☎0287-92-1114　Fax0287-92-1316
●発行／那珂川町役場／栃木県那須郡那珂川町馬頭409　URL http://www.town.tochigi-nakagawa.lg.jp

VEGETABLE OIL INK